

谷繁
作
横田修

男 女 緑色の存在

*登場人物

* 二〇三〇年。第四次産業革命の真っ最中である。

場所は日本。深夜。

マンションの居間のような場所。

中央にガラクタが積んであり、各々に「廃棄」の張り紙が貼つてある。どうやら皆、粗大ゴミのようだ。

* どこかに一箇所、出入口がある。

となりの部屋に通じているらしい。玄関もその先にあるようだ。

* 開演。

舞台上には男が一人。

男
⋮

* 男がゴミの一つを見ている。

人間のような存在が横たわっているのだ。

全身緑色で、その背中に「廃棄」と書かれた紙が貼つてある。隣の部屋から女の声が聞こえてくる。

そつち終わつたの？
まあ、大体は、

男女

* 男の携帯へメールが届く（音が鳴る）。

メールをチェックする男。そこに女が登場する。

駄目よ、写真は、

分かってますよ、

それにも、素敵なおうちね、

男女

そりや、デザイナーズハウスですからね、あるところには、あるのよ、何ですか？

お金、まあ、そうですね、

でも大丈夫、何がですか？

だつて、結局は夜逃げでしよう？家庭なんてボロボロに決まってるわよ、

⋮あの、

何？

これなんですけど、

* 男、緑色の存在を指さす。

それが、どうかしたの？

人間ですかね、

こんな緑色した人間がいるわけないでしよう、

じやあ、何だと思います？

知らないよ、そんなこと、

⋮

男女 男女 男女 男女

* 女、

素知らぬ顔で片付けを進める。

どうします、これ、（手伝いながら）
積み込みますよ、そりや、
その後は、

さあ、捨てると思うけど、
んー、

何よ、さつきから、

男女 男女 男女 男女 男女 男女

いや、でもこれ、何ゴミなんですか？
粗大ゴミかな、大きさ的には、
んー、

ねえ、あんた、分かってる？
何がですか？

引っ越しの仕事、

引っ越し屋ですね、

そう、とつととトラックに荷物を積んで、この家を
カラッポにするの、それだけ、
分かってますよ、それぐらいは、

でも、これがもし人間だったら、

人形でしよう、

え？
人形、違う？

だとしたら、めちゃくちやリアルですよねえ、

*二人、緑色の存在をじいっと見る。

まるで安部公房の『無関係な死』ですね、

何それ？

ある日突然、人間の死体が自分のアパートに投げ込まれるんですよ、それを、なんとか片付けようとやつきになる話です、

：：とつとと終わりにしよう、夜が明けちゃうよ、
でもこれ、下手したら本当に事件じやないですか？

やめなって、馬鹿なこと言うのは、
僕だつて馬鹿なことであつて欲しいと願つてますよ、

願つてますけど、

ねえ、頼むよ、竹原、
何ですか？
こんな美味しいアルバイト、いまどき他にないでしょ

う、
じやあせめて、家主に話だけでも聞けませんか？
知ってるの、連絡先？
え、知らないんですか？

社長しか知らないもん、

じやあ、社長に聞いてくださいよ、
イヤだ、

どうして、
どうして、
どうして、

喧嘩でもしてるんですか？

竹原には関係ないでしよう、

そりや、僕だつて関係したくないですよ、お一人の間
のことになんて、

：：

子供ができるんだつて、奥さんに、
あー、はいはい、

だから、
はあ？

私の方が好きって言つてたのにさあ、
いい機会じやないですか、潮時ですよ、

* 男の携帯に再びメール着信（音が鳴る）。彼女からのようだ。
男、内容を確認する。

：：マジか、

どうかしたの？
もうダメかも、俺、（泣きそう）

ちょっと、ちゃんと説明しなさいよ、

今、彼女からメールが来たんですけど、実家に帰るつて、あらそう、どうして？

なんだか、父親の具合が良くないみたいで、誰か身の回りの世話をする人がいないと駄目みたいなんですよ、

そつか、え、それで？

はい？

どうしてダメなの？

だって、もう戻つてこないから、

（泣きだす）

やだもう、本当にそうなの？

よくこぼしてたんですよ、田舎で地に足の着いた生活

をしたいって、

じやあ、あんたも一緒に行つたらいいじゃない、東京

に居たつて、どうせバイトしてるだけなんでしょう、

そりや、そうですけど、

いい年してフラフラしてるぐらいなら、新天地で彼女

と頑張つたら？

でも俺、飛行機代もないですよ、今、

貸すよ、それぐらい、

本当ですか？

この一年、よく働いてくれたしね、

でも、悪いですよ、そんな、

水くさいこと言わないので、その代わり、今日、頑張つてももらいたいかな、

はい、頑張ります、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

*二人、荷物の整理に戻る。

それで、どこなの、彼女の実家は？

マナウスです、ブラジルの、アマゾン観光の玄関口ですね、彼女のご先祖は最後の移民船でブラジルに渡つた日系人で、カカオと胡椒を作つてるんだそうです、

：はあ？

え、本当に貸してくれます？

いくらかかるのよ、

安い飛行機ならサーチャージ含めて片道二〇万ぐら

いですか、時期にもります、

無理に決まつてるでしよう、

ですよね、

：

男 女 男 女 男 女 男 女

*男、

緑色の存在から、何かが出ているのを見つける。

長谷川さん、これ、

何よ、

これ、なんですか？

コンセントでしよう、

ですよね、

馬鹿にしてんの？

こいつから出てますけど、

：

家電？

なんか、エッチなやつなんじやないの？

どういう意味ですか？

知つてるくせに、

いや、だとしたら、もう少し可愛く作るんじやないですかねえ、

男女 緑 女 男 緑 男 緑 男 緑 女 男 緑 男 緑

男女 男女

挿してみたら、

えー、

物は試しよ、（コンセントのことだ）

んー、

* 男がコンセントを壁コンに挿すと、起動音らしき音が鳴る。
そして緑色の存在（以下、緑と表記）が動き出す。

男女

あらあら、
離れて！

* 物陰に避難する二人。

緑、フラフラ起き上ると椅子に腰掛ける。すると、お腹側
にも「ハイキ！」の張り紙があるのが見える。緑、見知らぬ二
人に気がつく。

：あの、
　　はい、
　　どちら様ですか？
　　いえ、そちらこそ、
　　どうしたんですか、
　　私は、あ、や、しまった！
　　むやみに人前に出るなと言われてるもんですから、
　　誰に？
　　主人に、
　　その、ご主人というのは／
　　男性ですか？
　　いえ、女性ですけど、
　　ん？そつち系？
　　ちょっと、黙つてください、

あの、すみません、
　　はい、
　　水を一杯、頂けませんか？

自分で行けって話なんですけど、これが、あれなもんで、（コンセントケーブルを指して）

：充電中、もしかして？

ええ、あれ？（お腹の張り紙「ハイキ」に気がつく）
　　じやあ、私が、

* 女 緑 女

* 緑 女

水を取りにキッチンへ。
お腹の張り紙を手に取ると、じっと見る。

何かの冗談ですか？
　　いや、さあ、
　　あなたが貼ったんじゃない？
　　ええ、
　　じやあ、あちらの方が、
　　来た時から貼つてありましたけど、
　　俺ら、引っ越し業者なんですよ、
　　こんな夜中に？本当に？
　　まあだから、夜逃げなんだと思いますけど、

* 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男 緑

* 女

水を持つてくる。

どうぞ、
　　ありがとうございます、

* 緑、水を飲む。実に美味しそうだ。

生き返りました、
よかつたです、

お名前は、

え、あー、竹原と申します、
これはご丁寧に、
いえいえ、

あの、

はい、
名前？あなたの、

や、失礼しました、谷繁と申します、

ありがとうございます、まあ、主人が勝手にそう呼んでるだけなんですね、実際はどういうことですか？

本来、自分達は名前を持ちません、
自分達って？
谷繁です、

何、谷繁って？

さあ、
全く、名前を付けないと気が済まない生き物なんですね、人間というのは、

：

や、失敬、
あの、
何でしょう、
ロボット、なんですよね、
そんな風に見えます？

緑女 緑女 緑

緑 男女 男 緑 男 緑

緑 男 緑 女 緑 女 緑 男 緑

だつて、（コンセントを指して）
あー、はいはい、これね、
電気で動いてるんでしょう？

さあ、
え、だつて、
よく分かんないんですよ自分でも、確かに、充電が切れたら意識は無くなるんですけど、

じゃあ、
でもほら、皆さんだつて夜寝る時には、意識を無くす

でしよう、

そりや、だつて、寝るからね、
私だつて、寝てるのかかもしれないじやないですか、正直、人間とそんなに違わないと思うんですよ、

んー、
ちよつと、
何ですか、
いいから、
え、何？

* 男女 男女 男 緑女 緑女 緑女

：

＊ 男と女、別室へ。何やらゴチャゴチャ話す二人。

緑は「ハイキ！」と書かれた張り紙を握りしめ、泣く。その声に気づいて戻つてくる二人。

元気出して、谷繁さん、
ありがとうございます、
長谷川つて言いますけど、私、
これはどうも、谷繁です、
ちょっと今、二人で話をしたんですけど、
なんでしょう、

あなたは何ゴミなんですか？
はあ？

ですから、遺体なのか、死骸なのか、ただの粗大ゴミ
なのか、

どういう意味ですか？

書いてあるでしよう、（張り紙を指す）

待つてください、これはイタズラですって、

そういうなんですか？

見れば分かるでしよう、生きてますよ、

でも、それ抜いたら、（コンセントを抜こうとする）

ダメダメダメダメ、

そういう契約なんですよ、

契約とは？

張り紙のあるゴミは、きちんと処分するようについて、

そんな馬鹿な話があるか！

要するに、長谷川さん、

はい、

私が居なくなればいいんですね、この家から、

まあ、そうですね、

出て行きますよ、全くもう！

：
* 緑、部屋をうろうろすると、どこから酒を取り出し、飲み
始める。

どれぐらい待てば？

ああ、そうですね、ついさっき挿したんですか？

（コンセントだ）

ええ、

じやあ十二時間ぐらいかな、

時間ないんですね、

じやあ、せめて三時間、

：
三十分！

それで平気なんですか？

まあどこか、その辺りのコンセント挿して回れば、

うち、来ます？

え、

どうせ行く宛もないんですね、

竹原、

だって、なんか可哀想になつてきちゃつて、

ありがとうございます！いやあ、ありがとうございます！

す、竹原さん！

駄目よ、

どうしてですか？

ルール違反、

でも、どうせ捨てるんですね、

何を言いだすか分からぬでしよう、

大丈夫です、何も見てませんし、何にも知りませんか
ら、あと、何にもできませんよ、私、ほんと、役立た
ずなんですよ、

こう言つてますけど、

もし社長にバレたらエライことになるわよ、

何ですか、エライことって、

バイト代ゼロ、

緑男
：あー、ごめん、
⋮

*うなだれる緑。

分かりました、抜いてください、それ、
いいんですか？
どうせ一度は捨てられた命です、
ちよつと待つて、
ぬるい情けは無用です、
そうじやなくて、
え、

結局その、あなたは何ゴミなわけですか？
知りませんよ、そんなこと！
でも、それじやあ、
そつちで決めて下さい、適当に、
分かりました、
どうするの？

やつぱり、勇気りますよ、
え、
自分で、自分が何ゴミか決めるっていうのは、
⋮

何か、言い残すことは、
ありません、
それじやあ、

*男、コンセントを抜こうとする。

すると緑は何やら切ない歌を歌い出す。
男がコンセントに手を掛けると歌声は大きくなる。
そのうち男もすり泣きながら歌い出す。

あのさあ！
はい、何か、

さつき役立たずとか言つてたけど、なんか機能みたい
なものは無いの？

機能ですか？
どうことですか？

だから、例えば、炊飯器はご飯を炊けるでしよう、何
かそういうものでもあればね、リサイクルとか、
なるほど、
まあ、分かんないけどね、正直、売れるかどうかなん

て、
⋮
何にもないの？
じやあ、あなたにはあるんですか？

その機能とやらが、
私は、何だろ、
そんな風に聞くこと自体、人を馬鹿にしてるって分か
りませんか？
でも、人じやないでしよう、あなたは、
むぐ、
待つて、長谷川さん、
何？
いや、今のは、俺たちが悪いですよ、
⋮
すみません、ほら、
え、何よ？

長谷川さんも謝つて、
どうして、

男 緑 男 男女 男女 男 緑 女 緑 女 緑 男 緑

女 男 女 男 緑 男女 男女 男 緑 女 緑 女 緑 女

緑女 緑女 緑女男 緑女男 緑男 緑男 緑男 緑女 緑女 男女男

このままじゃ、俺たちのほうが「人でなし」ですよ、
…、「めんなさい、
もっと、心を込めて、
ごめんなさい！」

いい人ですね、お二人共、

別に、そんな、

最後に話をしたのが、お二人で良かつたです、
そんな風に言われちやうとなあ、

じやあ、一つだけ教えましよう、竹原さん、

何ですか？

彼女とは別れなさい、

…は？

とんでもないことになりますよ、今、手を切つておか

ないと、

…

どういうことですか？
竹原さんの為を思つて言つてるんです、私は、

えーと、

（大笑い）え、何で分かるんですか、そんなこと？
ここだけの話ですけどね、私、世の中の十年先ぐらい
のことが見えるんですよ、

すごい機能じやん！

大抵の人は信じてくれませんね、でも、主人は私の言
うことを信じたから、こんな素敵な家を建てることが
できたんです、

本当に？

なのに、なのに、非道いと思いませんか？出会いの場
所は川でした、もう三十年ぐらい前になりますか、大
雨で増水した川に流された主人を、偶然近くで泳いで
いた

いた私が助けたんです、
カツパみたい、

カツパではありません、以来、互いに励まし合つて今、
日まで生きて来たというのに、あつけないもんですよ、
終わる時つてのは、

…

じゃあ私は？

長谷川さん、

今、私も恋人と喧嘩してるんですけど、
ちよつと待つて、長谷川さん、

何よ、

こんなの、適当に決まつてるじゃないですか、

そりやあ、そうかもしだいけど、

私だつて、攝理に背いたことだと思います、こういう

ことは、

あり得ないわよね、普通、

ですから、必要以上のことは喋りません、ただね、竹

原さん、

…

竹原さんは、ちゃんと言うことを聞いた方がいい、
どうしてですか？

貴方の命に関わるからです、

…（コンセンントを抜こうとする）

だから、ちよつと待つてつてば！

嫌だ、抜きます、

私にだつて話を聞く権利ぐらいあるでしよう！

なんですか、権利つて、

ずるいじやん、自分だけ、

聞きたくて聞いたわけじやないし、俺だつて、

データラメなんでしょう？

決まつてゐるぢやないですか、じやあ、私が聞いたつていいぢやない、

男女 男女

⋮

* 男、コンセントから距離を取る。
女、谷繁に近づき声をかける。

谷繁さん、谷繁さん？

はい、何でしよう、そのだから、私と、私の彼氏の、未来予想図みたいな？

もしかして、社長とのこと聞いてます？

悪い？

ただの浮氣相手でしようよ、ほつといて、

* 緑色の存在、女をじつと見て。

ます人類は、約百年後に滅ぶんですけどね、そんな先の事じやなくて、いやいや大切ですよ、あなたの子孫に関わることですから、

残せるんですか？

まあ十中八九、その、今のお相手との間に、本当に？

子供は、二人、二人も？

女の子と男の子、男の子は、ちょっと耳のカタチが変わつてゐるかもせんが、まあ問題ないでしよう、父親も、え、

父親も、耳のカタチが変わつてゐるんですよ、えー、どうして？

お相手の方ですけど、仕事運はあまり順調ではありますね、程なく、お勤めの会社は倒産します、うちの会社のこと、もしかして？

おい、谷繁！

えー、どうしよう、竹原、倒産だつて！（笑つてゐる）まあ、ですから生活には苦労しますけど、お金では決して買えない幸せをつかめるはずですよ、その方と、⋮（ちょっと泣いてる）

え、何で、長谷川さん、

だつて子供とか、半分諦めてたから、

信じるんですか、こんな話を？

今まで、誰も言つてくれなかつた、こんなこと、分かるわけないでしよう、未来のことなんて！でも父親の耳の事まで当てたんだよ、私のこと知りもしないのに、どうしてそんなこと言えるわけ？とにかく、詐欺師の手口ですよ、こんなのが、失礼でしよう！

よく考えてください、長谷川さん、

⋮
これは、電化製品です、

そうよ、だから？

自分の未来を、電化製品に托していいんですか？

お察しますよ、お気持ちは、竹原さん、

もちろん、私の言うことだつて百パーセントの正解率じゃありません、特に十年以上先のことについてね、

男 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男女 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男 緑 男

当たり前だよ、

でも、ここ一、二年とか、少し先のことなら、ほぼ百
パーセントなんですよ、経験上、

⋮

ねえ、竹原さん、

言うな、聞きたくない、

変えられるんですよ、未来は、

⋮え、

確定した未来なんてありません、多くの物事は、その本質は、誰にだつて切り開くことができるんです、

それっぽいこと言うよねえ、

小説、書いてるでしょう、竹原さん、

⋮

読まれてますよ、百年後も、

え？

あなたの書いたものは、この国の中文学史に残ります、

すごいじゃない、

ちょっと待つて、

ただし、それは竹原さんが生きていれば、です、

⋮どうして、

どうして、知ってるんですか、小説のこと、ネットにもアップしたことないのに、

書きながら、どんどん変わっていくでしょう、小説の筋は、

⋮

一緒ですよ、

え？

未来は変わるんです、変えられるんです、

⋮

* 男、粗大ゴミの中から古びたギターを手に取ると、谷繁に向

かってゆっくりと振り上げる。

緑はひるまず、男の目をただ、じっと見ている。

ねえ、何する気？

決まってるでしょ、ぶつ壊すんですよ、

待つて、待つてよ、これ、よく考えたら、すごい便利な機能だと思わない？私、もうから、いいでしょ、ルール違反じゃないんですか？

そんなちっぽけなルールが何だつていうの！

ぶつ壊れますよ、人生、

ぶつ壊れても良いから！

女 男女 男 女 男女

* 男、谷繁を庇う女を突き飛ばす。
緑は、襟を正して正座をする。

やめて、竹原！

最後に良いですか、

⋮どうぞ、

人類は滅びます、それは決まっています、そして、人類の後に来るものは谷繁の時代です、私達の時代がついにやつて来るんです、一つ一つはとても小さな存在です、ですが、来たるべきその時のために今はまだ、世界の隙間で待っている、そう、待っているんです、でもそれまでは、皆さん、どうかお元気で、健やかに生きて下さい、何事も、命あつての物種です、今日まで、お世話になりました、暖かいご飯、美味しうございました、お酒も美味しうございました、谷繁は、今まで幸せでした、

女 逃げてー、谷繁さん！

* 女、男を突き飛ばすと、谷繁の手を引いて一緒に逃げる。
緑、立ち止まると、再び男の元へ向かう。

竹原さん、後生です、ご自身の身を案じるなら、小説を未来に残したいなら、今の彼女とは綺麗さっぱり／＼こん畜生！（ギターを振り下ろそうとする）

* 女、緑のコンセントを抜く。
倒れる緑。

： 女、再度、コンセントを挿しこむ。
しかし、もう一度と動かない。

男女 えー、どうして、
元々壊れてたんですよ、だから廃棄なわけで、
＊ 諦めきれない女は、緑の体を揺すつている。

え、
決めました、俺、

行つてみます、マナウス、
ああそう、お金は？
何とかしますよ、自分で、
でも、いいの、本当に？
何ですか？
だつて、別れたほうがいいって、谷繁さん、
むしろ逆に、こいつの話聞いてたら意地でも別れるも
んかつて、腹が決まりましたよ、

よく分かんない、
いいですよ、別に分かってもらえないでも、
あー、もう！

* 女、諦めたようだ。

でも知らなかつたな、
え、
竹原が小説書いてるなんて、
： 何なんですかね、本当に、

男 え、
女 だって、小説のことなんて彼女にも言つてないのに、
男の動きが不意に止まる。

男 結局、分かんなかつたね、何ゴミか、
女 え、
男 竹原？竹原？

* 倒れる男。
そして二度と動かない。

（おしまい）